

児童発達支援センター きらり直方  
令和 2 年度自己評価結果及び改善目標について

児童発達支援センター きらり直方  
センター長 坂本 健一

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症への対策に追われ、計画通りに実施できなかったことがたくさんありました。保護者アンケートならびに自己評価結果からも、その点がはっきりとでておりましたので、引き続き取り組んでいく内容となりましたが、ここに公表します。

1. 自己評価結果について

保護者アンケート(3月実施)及び職員アンケート(3月実施)結果

- ① 保護者と職員の情報共有が十分ではない
- ② 活動内容が固定化している
- ③ 保護者支援が十分ではない
- ④ 父母の会等、保護者同士の連携の機会は不足している。
- ⑤ 第三者評価が行われていない
- ⑥ 研修機会が十分ではない
- ⑦ 個別の活動(専門療育を含めて)が不足している
- ⑧ 専門機関との連携が不足している
- ⑨ 地域との交流機会の不足
- ⑩ 緊急時の対応について

上記の10点について改善の必要があるという評価結果になりました。

2. 改善目標の設定について

- ① 情報共有の強化  
個別の面談の機会を6か月に1度設けます。
- ② 活動内容の充実  
他の児童発達支援センター等の見学や連携を図り、活動を取り入れます。  
専門家のアドバイスを受け、活動内容を設定します。  
活動内容の検討をチームで行います。
- ③ 保護者支援の充実  
ペアレントトレーニングの実施に向けて、職員の研修受講を進めます。
- ④ 保護者同士の連携の機会の設定  
保護者勉強会の実施  
きらりカフェ(仮)の実施
- ⑤ 外部評価の導入に向けた検討

- ⑧の専門機関との連携の充実にあわせ、センターの支援内容を評価してもらう仕組みを作ります。
- ⑥ 職員のスキルアッププログラムの策定  
1年間の研修計画を策定し、計画的なスキルアップを図ります。
- ⑦ 専門療育機会の充実  
言語聴覚士、作業療法士、公認心理士による個別療育の実施
- ⑧ 専門機関との連携の充実  
福岡県発達障害者支援センターゆうもあとの連携  
直方特別支援学校との連携  
他の児童発達支援センターや放課後等デイサービス事業者との連携  
直轄地区自立支援協議会との連携  
医療機関との連携
- ⑨ 地域との交流機会の設定  
地域住民を行事に招待  
地域の幼稚園・保育園との交流の実施  
施設見学会の実施  
施設機能の開放
- ⑩ 緊急時の対応強化  
直方消防署・直方警察署との連携  
火災・地震・水害・不審者等を想定した避難訓練・救出訓練・通報訓練の実施  
田川児童相談所との連携  
虐待の予防のため、職員研修の実施  
各、対応マニュアルの再検討  
非常災害対応マニュアル(火災、地震、水害、不審者、感染症)の周知徹底と、定期的な見直し、

上記の10項目について、令和3年度は取り組んでまいります。

1. 子どもたちが通所を楽しみにする施設づくり
2. 保護者の皆様が安心して子供を預けることができる施設づくり
3. 子供の発達を「保護者・職員・地域」が一体となって支える施設づくり

今後も、児童発達支援センターきりり直方をよろしく願いいたします。

令和3年3月31日